

令和5年度 第3回学校運営協議会 議事録

静岡県立掛川特別支援学校

1 日 時 令和6年2月5日（月） 午後1時30分から3時30分まで

2 会 場 静岡県立掛川特別支援学校 会議室

3 参加者

○委員

会 長 鴻野 元希 様

副会長 杉山 弘 様

コーディネーター 田辺エミ 様

・委 員 馨 敏郎 様

・委 員 大石 徹 様

・委 員 中山 善文 様

・委 員 藤田 節子 様

*欠席 ・委 員 山元 薫 様

○学校

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、

肢体不自由教育主任、CSディレクター

教務情報課長 生徒指導課長 防災教育課長 保健給食課長 研修課長

自立活動課長 体育課長 図書表現課長 地域連携課長 キャリア教育課長

4 内容

(1) 開会

校長挨拶

(2) 議事

① 令和5年度学校関係者評価委員会

ア 教職員アンケート、保護者アンケート集約

イ 令和4年度学校経営報告書（自己評価）

ウ 令和5年度高等部進路状況について

エ 令和6年度学校経営計画（案）について

オ 質疑応答

② 「地域とともに歩む学校」を目指して

ア 各学部等の実践報告 <部主事・肢体統括>

イ ふれ活シンボルマークについて <大塚CSD>

ウ 意見交換

③ 校内コンプライアンス委員会 <進行：副校長>

ア 不祥事根絶取組報告 <副校長>

イ 委員からの提言

(3) 連絡事項

① 地域販売会について <中高主事>

② 令和5年度卒業証書授与式について <教務情報課長>

(4) 閉会

5 議事録

(1) 校長挨拶

本日は今年度の学校経営書に従いながら実践してきたことの報告と次年度の方向についてお伝えします。忌憚のない御意見をたくさんいただき、令和6年度が今年よりもより良い年になるよう、よろしくお願ひします。

(2) 議事 司会：副校長

①令和5年度学校関係者評価委員会

ア 教職員アンケート、保護者アンケート集約（教務情報課長）

＜教職員アンケート＞（ウェブによるアンケート、回収率100%）

- ・24項目中全ての項目で「そう思う」「だいたいそう思う」の割合が85%を超えた。健康、安全、特性に配慮しながら、児童生徒の良さ(強み)を教職員間で共通理解して伸ばすことを意識し、概ね適切な指導、支援を行っているという評価である。特に人権や、安全管理（環境整備）については、全員が意識して取り組んでいる評価である。
- ・ICT機器の活用について、教職員が授業で活用する場面は増えている反面、児童生徒が主体的に活用することに課題がある。どのような活用方法があるのか、教員のスキルアップが必要である。
- ・コロナ禍で今までできなかった行事等が少しずつ行えるようになり、元の学校生活に戻りつつある。コロナ前に行っていた学部間の交流をしながら、他学部や障害種への理解をさらに深めていきたい。

＜保護者アンケート＞（ウェブによるアンケート（一部質問紙による）、回収率98%）

- ・13項目中全ての項目で「そう思う」「だいたいそう思う」の割合が90%を超えた。人権や安全に配慮した取り組みや、個別の教育支援計画・指導計画に基づいた指導、支援、個別面談のもち方に理解と評価をいただいている。
- ・新型コロナウイルス感染症が5月に5類へ移行したことにより、水泳指導、行事（運動会、体育祭、ふれあいフェスタ等）や参観、懇談会等が行えるようになった。子どもたちの様子を直接見て感じていただくことができる機会が増え、肯定評価をいただいている。
- ・駐車場運営や電話対応など記述の回答で「ルールを守らない人がいて危険だ」「夕方の時間の制限が厳しい」「着信に折り返しができない」等の意見があった。ルールを分かりやすく周知していきたい。
- ・「ホームページの各学年の様子が減った」「行事の様子だけでなく、普段の様子も載せて欲しい」等保護者の声が聞かれた。保護者が知りたい情報はもちろん、保健関係、進路関係など学校として知っていてほしい情報も提供できるよう、引き続きおたよりや懇談会、学習会等で発信し、いつでも、相談しやすい体制作りを行っていきたい。

イ 令和5年度学校経営報告書＜自己評価＞（副校長）

(ア) 安全が確保され安心して学べる学校づくり

- ・防災教育課長：夏に福祉避難所解説・運営訓練を掛川市と合同で行い、全職員が経験したことで、目的や役割を再確認することができた。発災時に何人が参集でき、何人の受け入れが可能になるかを想定する必要性を感じている。また、校内でも訓練を行うたびにマニュアルの改善の必要性を感じ、現在見直しをしている。令和6年度は防災教育にも力を注いでいく。
- ・生徒指導課長：人権アンケートや生活アンケートで日々の実践を振り返り、翌月に活かしている。

- ・小主事：金曜日に18時退勤する日を設定し、月の残業45時間以内を達成できている。来年度に向けて、行事の系統性を再確認し、適正人数での授業計画、級外職員の活用をして、職員がワークライフバランスを整えて働くことができるよう取り組んでいる。
- ・中主事：職員の持ち時間のバランスを考え、担当教科制をとり、事務処理時間の確保をしている。また、来年度に向けて、学部行事の精選を行っている。職員一人一人の状況が異なり、子育て中や介護中の職員もいるので、「お互いさま」の気持ちで業務にあたるように伝えている。
- ・高主事：昨年度までは15:30下校の日が週に4日間あった。今年度は下校時刻が14:45になったことで、16:00からの時間を授業準備に活用できている。また、学年主任を中心に、教科担当や仕事量の把握をし、お互いに声を掛け合い助け合うという雰囲気、仕事の偏りを気に掛けながら業務を進めている。
- ・肢体統括：月の時間外労働45時間以上の職員が多かったが、11月、12月は0人になった。事務処理時間の確保ができ、適正人数での授業を運営できるようになった。来年度に向けて、行事の内容を精選したり、年間指導計画の見直しを図ったりしている。
- ・鴻野委員：すばらしい取り組みをしている。能登の福祉避難所は経営が難しいと聞いた。掛川特別支援学校に福祉避難所を開設する際は、市の職員が参加するのか。
- ・校長：発災3日後を目処に開設する予定。掛川市からの要請のもと、本校職員が協力して動くようになる。
- ・鴻野委員：水の備えは十分あるのか。
- ・防災教育課長：備蓄している水があり、飲料水として備蓄していた水の期限が切れた物は、トイレにストックし、生活用水として利用できるよう準備している。
- ・杉山委員：遠方から勤務している職員が、何人くらいたどり着けるのか心配。
- ・副校長：居住地が近隣の職員が応急対策要員となっている。
- ・防災教育課長：基本的に、本校職員は全員が参集することになっている。
- ・副校長：ただし、本校へ参集できないときは、最寄りの県立学校へ参集することになっている。能登の状況をTVや写真で見ているが、この辺りにいつ災害が起こっても不思議ではないので、対策をすすめていく。

(イ) 一人一人の自立と社会参加を目指した指導と授業作り

- ・自立活動課長：学習指導要領に則った「流れ図」を使い、ケース会議を行った。今後の年間指導計画を検討する際に活用してもらい、教員の質を高めていく。
- ・鴻野委員：「すまいるファイル」について、高等部に地域の中学校から入学する生徒も活用できているのか。また、タブレット端末やスマートフォンを、どのように学習に活用しているのか。
- ・高主事：地域の中学校から入学する生徒も中学校で作成した支援計画が送られてくるので、保護者の願いをアンケートでとったものと合わせて、担任と保護者が検討しながら作成している。タブレット端末は調べ学習や作業学習等で活用しているが、さらに、生徒が生活の中で使えるものになるようにしていきたい。
- ・校長：県では、「静岡型プラットフォーム」と題して児童生徒個人の健診結果、住所、体力テストの結果などの情報が一括して見られるような仕組みを作り、令和7年度から全県で実施する予定。それに先立ち、令和6年度に清水特別支援学校で実践する計画となっている。
- ・副校長：県立高校の生徒一人1台タブレットの動きがあり、本校もどのように進めていくか来年度から具体的に計画実践していく。

(ウ) 家庭・地域・関係諸機関に信頼され、共に連携して歩む体制づくり

- ・田辺CO：外国にルーツのある児童生徒が増え、障害の判断が難しく、現場がどう対応したらよいか困っていると聞いている。現状はどうか。
- ・副校長：県内全体で、外国にルーツのある子どもが増えている。発達検査や知能検査での判断が難しい現状。検査のほとんどが言葉でのやりとりのため、母語がままならない子どもに正確な検査ができているのか、解決策が見いだせないということが就学支援委員会等でも話題になっているのが現状。
- ・地域連携課長：市町によって対応は様々。磐田市には、外国籍児童の学級がある学校がある。菊川市には、「にじのかけ橋」という場所で土台となる日本語を身に付けてから地域の小中学校へ転入していくという仕組みがある。ただ、母国語を習得していない子どもたちには難しいと思われる。ただ、視覚支援に対する反応で判断することもできる。
- ・鴻野委員：きめ細かく連携できていて、素晴らしい。就学支援委員会との連携はどのようになっているか。
- ・副校長：掛川市にアドバイザーとして私が参加し、菊川市と御前崎市に委員の一人として教頭が参加している。また、コーディネーターが依頼を受けてアドバイスに何うこともある。

ウ 令和5年度高等部進路状況について（キャリア教育課長）（詳細は別紙）

- ・キャリア教育課長：卒業生28人のうち、企業就労10人、福祉就労18人と全員の進路先が決まった。障害者雇用率が2.3%から2.7%に上がることを見越して、企業から声が掛かることが増えてきている。
- ・大石委員：弊社も2.3%の雇用率は達成しているが、2.7%となると10数名足りない。会社としても障害者雇用に力を入れたいと考えている。就労後に学校からもフォローがあると心強い。
- ・キャリア教育課長：学校以外にも、就労支援専門員や就労・生活支援センターなどと移行支援会議を行い、フォロー体制を整えている。
- ・副校長：本校では、1期の卒業生を雇用し、授業準備等の仕事をしてもらっている。

エ 令和6年度学校経営計画（案）について（校長）

- ・開校からの学校教育目標「元気、笑顔、夢の実現」を今後は校訓として大切にしていきたい。そして、来年度からの学校教育目標は、主体的対話的で深い学びを意識し「いきいき学び 地域と共に よりよく生きる人を育てる」とした。地域の皆様との関わりを子どもたちの深い学びにつなげていきたい。
- ・具現化の柱を「専門性」、「安全・安心」、「連携」の3点に整理。「専門性」を一番に掲げ、教員の専門性を向上させていく。カリキュラムマネジメントと心理的安全性の確保の両輪で取り組み、少ない労力で成果を上げていけるようにしていく。「安全・安心」については、災害に対する備えに力を入れていく。そのために、職員一人一人が想像力を働かせて対応できるように訓練を行ったり危機管理マニュアルの整理をしたりしていく。「連携」については、地域の皆様の力を借りながら子どもたちを育てていきたい。

②「地域とともに歩む学校」を目指して

ア 各学部等の実践報告（詳細別紙）

（ア）小学部（小学部主事）

- ・運動会でのボランティア、ガーデニング交流、日頃地域へ出かけた際の交流等、日頃から様々な場面で関わることができた。

1日ウォークのボランティア募集では、中山様にお力添えをいただき、掛川市の SNS を活用させていただいた。おかげで21人のボランティアに参加いただき、参加者の方々に児童の頑張りを感じていただけた。

（イ）中学部（中学部主事）

- ・地域の名所、特産品、伝統を調べて学ぶ活動ができた。「体験して学ぶ」だけでなく、体験後にお礼の手紙等でも温かな関わりができており、子どもに分かりやすい活動であると実感している。

（ウ）高等部（高等部主事）

- ・様々な活動をとおして、作業学習で行ったことがどのように地域とつながっているのかが分かり、生徒たちの意欲につながっている。土日のイベントでも発信する機会が多くあり、作業製品のリピーターの方が、製品を使っている様子を写真で見せてくださることもあった。

（エ）肢体不自由教育（肢体統括）

- ・地域の写真家の方に iPad での撮影技術を御指導いただき、作品展では佳作を受賞することができた。また、花壇での園芸活動やさつまいも栽培等で様々な体験をすることができている。来年度は、収穫や見学だけでなく、水やりや観察なども行い、継続的に関わっていきたい。

イ 「ふれ活」シンボルマークについて

- ・児童生徒の投票の結果、真ん中にハートマークがある物に決定。
- ・今後は掛川工業高校にマークのデータ化を依頼し、令和6年度から活用に向けて動いていく。

ウ 意見交換 一年間の振り返り、今後の活動について

- ・中山委員：シンボルマークを作った始まりの年なので、様々な活動を期待している。市のホームページや SNS で PR できるので、掛川工業高校とコラボしていることも含めて利用してほしい。
- ・大石委員：企業も協力的だと思う。ぜひ応援したい。また、応援し関わることで、障害者への理解や関わり方に変化が出てくると思う。
- ・馨委員：全体への感想となってしまうが、働きやすい職場になっていると感じる。来年度の学校教育目標にある「地域とともに」とあるが、地域の方が人生の中で障害をもつ人にどれだけ関わっているかと考えると少ないはず。学校を見学したり子どもたちと関わったりすることで、地域の方への理解啓発につながり、特別支援学校の子どもたちにとっては働くことだけではない学びができると感じている。
- ・田辺委員：もっと地域の学校と特別支援学校との交流が増え、仲良くなれたらよいと思う。

③校内コンプライアンス委員会 進行：副校長

ア 不祥事根絶取組報告

(ア) 交通事犯対策

- ・年度始めに教職全員の交通安全のために気を付けていることを掲示
- ・夢の実現委員会による退勤前の放送
- ・出張時のアルコールチェックの徹底 帰宅後もチェックする。
- ・交通安全の動画視聴
- ・交通事故の事例の公表などの提供

(イ) 体罰根絶

- ・毎月、人権目標設定、個人の振り返りシートの記入
- ・人権伝達講習の実施

(ウ) 研修及び注意喚起

- ・不祥事根絶研修として、事例について学年で話し合い、全教職員の決意を掲示
- ・不祥事の実例や懲戒処分公表などの提供（繰り返し実施）
- ・情報セキュリティセルフチェック
- ・長期休業前の注意喚起

(エ) その他

- ・生活や学習に関するアンケートの実施
- ・児童生徒対象にセクシャルハラスメントに関する実態調査の実施

副校長：不祥事根絶の取組について報告させていただきました。取組につきまして御承認いただけますでしょうか。（委員：承認）

御承認いただきありがとうございます。今後も継続して取り組んでいきたいと思っております。